

2013.06.23 日本最西端の沖縄県・与那国島で暮らす小学1年、安里有生君（6）は、23日の沖縄全戦没者追悼式で朗読した平和の詩「へいわってすてきだね」に、悠然と時が流れる島の日常をつづった。家族や友達の笑顔に、島内をゆっくり歩く動物たち。「今、普通に生きていることが平和とを感じる」と話す。

有生君は今年春に入学した与那国町立久部良小（児童32人）の道徳の授業で沖縄戦や平和について学び、詩を書いた。「よなぐにうまが、ヒヒーンとなく」。大好きな動物の描写で平和を表現する一方、飢餓に苦しむ子どもや家族を失った人々に触れ、戦争の悲惨さを表した。

詩を選考した仲地千佳審査委員長（浦添市立神森小教諭）は「鮮やかに与那国島の自然や人々の表情が浮かんだ。自分の言葉で素直に表現することで、家族や友達に対する愛情、平和への願いがまっすぐに伝わった」と評した。詩の選考は毎年実施され、今年は小中高校から1690点の応募があり、有生君が最優秀賞に選ばれた。

2013年6月23日 沖縄慰霊の日

『へいわってすてきだね』

へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。

おともだちとなかよし。かぞくが、げんき。えがおであそぶ。

ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。

けんかしてもすぐなかなおり。

ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。

みなとには、フェリーがとまっていて、うみには、かめやかじきがおよいでる。

やさしいところがにじになる。

へいわっていいね。へいわってうれしいね。

みんなのころから、へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい。「ドドーン、ドカーン。」

ばくだんがおちてくるこわいおと。

おなかがすいて、くるしむこども。かぞくがしんでしまってなくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。

このへいわが、ずっとつづいてほしい。

みんなのえがおが、ずっとつづいてほしい。

へいわなかぞく、へいわながっこう、へいわなよなぐにじま、

へいわなおきなわ、へいわなせかい、へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。



『へいわってすてきだね』 安里有生/詩、長谷川義史/画、ブロンズ新社/刊